

スペイン カキの周年供給を目指す

[FreshPlaza 2025年9月9日](#)

カキを年に12カ月出荷できる最初の企業を目指す

スペインではロホブリランテ品種のカキの収穫が間近に迫っている。昨シーズンは悪天候の影響で大幅に減産となったが、今シーズンはそれを上回る生産量が見込まれている。

オウトルフレッシュ社(フルタデオウトル社から最近社名変更)のマネージャーであるマヌエル・バイデス氏は、「弊社ではロホブリランテ品種のカキの収穫が第38週(9月半ば)に始まる予定である。現地での試験と実証により、収穫開始を例年よりも前倒しすることができた」と話す。(以下「」は同氏の話)

バレンシア州に立地するこの企業は、社名変更に加え、カキの周年供給を目指す新プロジェクトを発表した。「弊社はカキを12カ月間供給できる世界で初めての企業となることを目指す。」

「我々は長年にわたり、オーストラリア、ブラジル、南アフリカ、ウルグアイの生産者と連携してきた。国内シーズンを起点とし、他の産地へとつなぐことで継続的な供給を達成するプロジェクトはほぼ完成している。補足的にシャロン系品種や航空便を活用する。」

今夏、同社はロホブリランテ品種の供給元のひとつであるウルグアイから20コンテナを輸入した。「我々は数年前から夏季にウルグアイ産のカキを販売しており、店頭にも多くの核果類が並ぶ時期であるため需要はやや低いものの、カキが常時入手可能であることは消費者の関心を引いているようだ。」

「我々は大量の供給を目指しているのではなく、弊社のROXO(ロホ)ブランドにふさわしい品質を重視している。9月30日から10月2日にかけてマドリッドで開催される次回のフルーツアトラクション見本市は、本プロジェクトへの参加に関心を持つ流通業者や販売チェーンの関係者を迎える絶好の機会となるであろう。」

今季について同氏は、シーズン初期は直近の熱波の影響により果実のサイズが例年よりも小さくなるものの、品質は良いと見込んでいると言う。「幸い病害虫の被害は限定的であり、これはより高品質な果実がより多く得られることを意味している。」

産地での買付価格は昨シーズンよりも高く始まり、最良のロットでは平均0.70ユーロ/kgに達している。「今年のカキの買付価格が高騰しているが、生産、包装、輸送コストの上昇も考慮する必要がある。直近の輸入シーズンでは良好な価格で取引されたため、(国内産も)シーズンの開始当初から市場の良好な反応と堅調な需要を期待している。」

同社は、国内市場に加え欧州各国にも果実を供給しており、コンテナ及び航空便による欧州域外への出荷も行っている。

執筆者: ホエル・ピタルク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)